



新類題發句集

春

5
4666
1



門 へ 5
號 4666
卷 1

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, enclosed in a rectangular border. The text is written vertically from right to left. A large red seal is visible at the top of the text block.

昭和十六年一月十一日寄
尼野貴英氏贈

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines, flowing from right to left. The characters are highly stylized and interconnected.

春一

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines, flowing from right to left. The characters are highly stylized and interconnected.

新類題發句集春之部

正月

蝶夢編

| | | | |
|--------------|-------------|-------------|--|
| 初春 | 春 | 暎月 | |
| 初春のや火燈のしる春小燈 | 春のや常小燈を吹書の凡 | 暎月のや人の顔むらり月 | |
| 末 | 伊勢 | 日向 | |
| 重厚 | 弘長 | 春鳥 | |
| | 先立 | | |
| | 道は | | |
| | 常陸 | | |
| | 石言 | | |
| | 回友 | | |
| | 吳笠 | | |

春二

春のや常小燈を吹書の凡
 暎月のや人の顔むらり月
 日向のや春鳥の鳴き声
 春のや常小燈を吹書の凡
 暎月のや人の顔むらり月
 日向のや春鳥の鳴き声

二十日

徳富

方

之

辛

優くはあそびのうた

二十日柱のうた

火障りのうた

うた

うた

うた

うた

うた

うた

うた

浪花

三石

山

尾花

修

池

吉

乙

吉

吉

芳雷

木束

風枝

学海

冬季

塘里

程巴

方壺

之巴

柙也

春四

門松

門竹

門

門

一門の松竹

一門の松竹

一門の松竹

一門の松竹

一門の松竹

一門の松竹

一門の松竹

一門の松竹

一門の松竹

一門の松竹

行亮

門馬

松竹

松竹

松竹

松竹

松竹

松竹

松竹

松竹

飾繩

傍炭

飾編

齒束

標

東... 飾繩... 傍炭... 飾編... 齒束... 標

金糸 龍昇 李朝 心哉 欽涼 李昌 松笙 朝善 夏栗 巨筭

春五

若水

大服

齒固

若水... 大服... 齒固

金糸 古友 文瓜 布直 五行 婆心 魚赤 芦口 如泉 緑古

籠煮
 善祝
 大箸
 鏡餅
 屠蘇酒

籠煮 籠煮 籠煮 籠煮 籠煮 籠煮 籠煮 籠煮 籠煮 籠煮
 善祝 善祝 善祝 善祝 善祝 善祝 善祝 善祝 善祝 善祝
 大箸 大箸 大箸 大箸 大箸 大箸 大箸 大箸 大箸 大箸
 鏡餅 鏡餅 鏡餅 鏡餅 鏡餅 鏡餅 鏡餅 鏡餅 鏡餅 鏡餅
 屠蘇酒 屠蘇酒 屠蘇酒 屠蘇酒 屠蘇酒 屠蘇酒 屠蘇酒 屠蘇酒 屠蘇酒 屠蘇酒

行勢 所風
 信忌 楮葉
 山城 一音
 去岐 奢洗
 志予 曉來
 荒古 梅珠
 紀伊 子詢
 伊豆 山梨
 安藝 其朝
 東吹

春六

蓬萊
 倉積
 棋子
 橋
 榎
 揚栗
 串材

蓬萊 蓬萊 蓬萊 蓬萊 蓬萊 蓬萊 蓬萊 蓬萊 蓬萊 蓬萊
 倉積 倉積 倉積 倉積 倉積 倉積 倉積 倉積 倉積 倉積
 棋子 棋子 棋子 棋子 棋子 棋子 棋子 棋子 棋子 棋子
 橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋
 榎 榎 榎 榎 榎 榎 榎 榎 榎 榎
 揚栗 揚栗 揚栗 揚栗 揚栗 揚栗 揚栗 揚栗 揚栗 揚栗
 串材 串材 串材 串材 串材 串材 串材 串材 串材 串材

出羽 歩月
 修務 三打
 京 蝶夢
 吉成 府柳
 信濃 鳳義
 陸奥 杏候
 和泉 陶々
 近江 牛文
 因幡 無徳
 極花

種儀

橙

野老

田作

敷子

小系

種儀 橙 野老 田作 敷子 小系

字 雲華 位 鳥木 歌 露吟 尾 山呼 宗 座忘 住 文育 大 涼石 按 十二巧 小 一葉 花 敷 花羽

春七

押鮎

團草

團豆

芋頭

掛鯛

押鮎 團草 團豆 芋頭 掛鯛

行 何童 丹 阿誰 友 東亭 丹 百男 我 凡馬 燕士 千尺

福業

庭電

法降

稻積

青の蒼し物なりしもの
はらへしものまじりし福なり
福業はたきいりしもの
薪なりしものまじりし
はらへしものまじりし
おのれなりしものまじりし
法降なりしものまじりし
おのれなりしものまじりし
よまのぬりしものまじりし
おのれなりしものまじりし

京 鯉風
秋 二返
志 西序
阿 葉路
血 吉行
張 月美
伴 如白
但 野ら
上 周莖
花 出蕭

春八

遠男

水祝

初曆

春書始

遠男は操りしもの
かきし物なりしもの
錦なりしものまじりし
おのれなりしものまじりし
おのれなりしものまじりし
おのれなりしものまじりし
おのれなりしものまじりし
おのれなりしものまじりし
おのれなりしものまじりし
おのれなりしものまじりし

遠 鯉山
遠 扇南
徐 徐来
日 日景
東 东芽
如 如調
出 鶏口
推 推五
秀 秀山
素 素嶋

讀始 五羊
 孝好 左龍
 偶川
 清好
 羊几
 富々
 航翠
 函台
 左文

春九

鋤始 馬瓢
 高始 下節
 門窓
 其中
 信川
 波公
 雲人
 西李
 花雪
 左柳

帳用

藏用

名節

高始

鋤始

大黒

中へはあつたふくむるはくはくは

土佐女
後あ
白雅

夷廻

其のくはくはくはくはくはくは

後あ
武仲

春駒

其のくはくはくはくはくはくは

後あ
青子

猿引

其のくはくはくはくはくはくは

後あ
白菊

鳥道

其のくはくはくはくはくはくは

後あ
竹涼

春上

破産

破産のくはくはくはくはくはくは

後あ
泰溪

破産

破産のくはくはくはくはくはくは

後あ
蓬室

録打

録打のくはくはくはくはくはくは

後あ
是月

玉打

玉打のくはくはくはくはくはくは

後あ
嵐花

羽子板

羽子板のくはくはくはくはくはくは

後あ
一路

胡鬼子

胡鬼子のくはくはくはくはくはくは

後あ
甲魚

後あ
梅里

後あ
百橋

後あ
甲魚

後あ
銀獅

白練

寶引

福引

年出

Handwritten cursive text in four columns, corresponding to the section headers above.

平 隆 乃 容 以 流 冬 耕 柴 菊 馬 吹 紫 兜 梧 泉 其 丸 膳 花

春十二

節食

藪入

Handwritten cursive text in four columns, corresponding to the section headers above.

平 隆 乃 容 以 流 冬 耕 柴 菊 馬 吹 紫 兜 梧 泉 其 丸 膳 花

鏡餅開
里下

春六入也角の一日なるの友
類生入日動きうも春の愛
かふらに事しし毎たのるるも
るのや権那の業ぶ物さう
敷入も敷の心動きとけさる
敷入も敷の井を業さしつる
草も野の心をうもるる
里ももや美り絶るるの思
くも居れは後さけらるる
ひも色別る日動きとけさる

春南
散菴
野亭
秋鳥
如髪
此相
瑠谷
蔵珠
探夢
似研

春十卷

若餅
細虫
爆竹
松内

若餅や春のころの杵の音
礼もするもあつても春の音
細虫や心の中をけりて
つる虫も春の心をうもる
三味線や春のあつても煙
右義長や心の中をけりて
右義長や春の心をうもる
唐小波や春の心をうもる
越すの心をうもる春の音
くも居れは後さけらるる

六橋
越勢
冬秀
蚕山
有交
菊乙
吳琴
丁水
巴川
梅東

善業

ついでに神意の如く打つる
精進の目も此の如く
善業の如く申すも
此の如く申すも
此の如く申すも
此の如く申すも
此の如く申すも
此の如く申すも

淡石 嗽石
武彦 柳也
江戸 蒲六
播磨 著裁
江戸 仙家
上野 魚皮
播磨 魚肉
播磨 布舟
後文 化巻
一巴

春十五

七廿

善

福 粥柱

七廿の如く申すも
七廿の如く申すも
七廿の如く申すも
七廿の如く申すも
七廿の如く申すも
七廿の如く申すも
七廿の如く申すも
七廿の如く申すも

末尾 翠之
播磨 青蕪
紀伊 一斤
但馬 魚肉
女 楚和
女 寸塔
紀伊 環祀
播磨 西佛
甲斐 白喬
後中 李山

粥杖

赤豆粥

福寿竹

下崩

粥つゝも神の意なるを述り
の杖や赤豆粥の杖
大善の杖も小善の杖
竹の杖も竹の杖
福寿竹の杖も福寿竹の杖
振もつゝも福寿竹の杖
下崩の杖も下崩の杖
下崩の杖も下崩の杖
下崩の杖も下崩の杖
下崩の杖も下崩の杖

綾足
雪言
木槿
南無
琴之
梅珠
素琴
五峯
石馬
布子

春十六

草芽

若草

下崩の杖も下崩の杖
下崩の杖も下崩の杖
下崩の杖も下崩の杖
下崩の杖も下崩の杖
下崩の杖も下崩の杖
下崩の杖も下崩の杖
下崩の杖も下崩の杖
下崩の杖も下崩の杖
下崩の杖も下崩の杖
下崩の杖も下崩の杖

糸
竹涼
麥雨
一形
唇風
石牙
葉貫
鳳爪
木越
仙鳥

醫藥新集 七竹のほけのしるし
 波蔭葉 清き草の葉の影もさかえり
 芥 芥の葉の影もさかえり
 野文根 百葉の影もさかえり
 茅芽 茅の葉の影もさかえり
 芦角 芦の葉の影もさかえり
 萍生 萍の葉の影もさかえり

鳥語 桂蘭 蝶夢 秋水 雄羊 一鶴 道肥 青容 其玉 嶺文

春十八

木茂 菰の葉の影もさかえり
 梅 梅の葉の影もさかえり
 梅 梅の葉の影もさかえり
 梅 梅の葉の影もさかえり
 梅 梅の葉の影もさかえり
 梅 梅の葉の影もさかえり
 梅 梅の葉の影もさかえり
 梅 梅の葉の影もさかえり
 梅 梅の葉の影もさかえり
 梅 梅の葉の影もさかえり

賣雪 和雲 陶々 白雄 千影 飛古 曾秋 烟竹 孤鴻 意呂

柳

言をたてて甘白さうりや本意を
正白さうりてはれんもあはれ
し高もあつらひるも構ふは
さうりてあつらひるもあはれ
梅のたきまじりてはれんも
公梅やあつらひるもあはれ
ちうりてあつらひるもあはれ
梅のたきまじりてはれんも
聖のたきまじりてはれんも
のちうりてあつらひるもあはれ

陸奥 泰里
伊勢 巨石
播磨 杜竹
越前 梨青
播磨 瓜坊
近江 燭酒
北后 巨海
北后 青馬
云久 片巻
伊波 吳川

春十九

青柳のあつらひるもあはれ
まじりてはれんもあはれ
西の柳やあつらひるもあはれ
阿の柳やあつらひるもあはれ
雨の柳やあつらひるもあはれ
まじりてはれんもあはれ
あつらひるもあはれ
青の柳やあつらひるもあはれ
あつらひるもあはれ
本意をたてて甘白さうりや

佐中 文里
長波 松巻
近江 葉二
北后 麓雨
先方 月村
近江 志風
北后 大島
北后 古考

丁大根

丁基

鴨

Handwritten cursive text in the right column, starting with '竹' and ending with '長'.

山後 意水
後中 松清
陸奥 東溪
尾花 坡良
信茂 築紫
石戸 麻刈
武岩 止島
加皮 松井
基十 耳香
片屋 長路

春元一

Handwritten characters at the top of the left page.

Handwritten characters at the top of the left page.

Handwritten cursive text in the left column, starting with '今' and ending with '長'.

山後 意水
甲斐 鼓氷
遠江 處白
河野 荒海
基十 雨人
近江 園文
近江 古菜
近江 鏝碎
近江 素友
近江 長路

魚上永
瀬奈魚
春日

春風

の春風はなほなほ
何れも春風のふり夜更の
るすつる林をゆりかざり
雲の結ぶる春風はけ
枝よけの春風はけ
蟻の足も春風はけ
信の文の上へ春風はけ
けりぬる春風の枝よ
能くも春風のけり
信の枝書も春風のけ

遠の 白轆
信の 麦光
信の 青橋
信の 蝶衣
信の 集雲
信の 其川
大和 鯉川
加賀 不朽
加賀 白鳥
信の 塘里

春九三

春風はなほなほ
何れも春風のふり夜更の
るすつる林をゆりかざり
雲の結ぶる春風はけ
枝よけの春風はけ
蟻の足も春風はけ
信の文の上へ春風はけ
けりぬる春風の枝よ
能くも春風のけり
信の枝書も春風のけ

信の 机友
信の 一朶
信の 貝珠
信の 二葉
信の 坐若姦
信の 杏清
信の 鳳翔
信の 百九
信の 二柳
信の 菊二

春雪

雪のふりや春の雪のふりや
梅の花も春の雪のふりや
柳の葉も春の雪のふりや
桃の花も春の雪のふりや
桜の花も春の雪のふりや
梨の花も春の雪のふりや
橘の花も春の雪のふりや
柿の花も春の雪のふりや
柚子の花も春の雪のふりや
松の花も春の雪のふりや

竹 笠
八丈
李川
一深
尾張
暁臺
瓜江
丹后
馬耕
藤下
羽州
寒嶋
近江
龍河

春元四

春雪

雪のふりや春の雪のふりや
梅の花も春の雪のふりや
柳の葉も春の雪のふりや
桃の花も春の雪のふりや
桜の花も春の雪のふりや
梨の花も春の雪のふりや
橘の花も春の雪のふりや
柿の花も春の雪のふりや
柚子の花も春の雪のふりや
松の花も春の雪のふりや

山 笠
李成
習之
山市
幽堂
竹 義
甲斐
琴雪
三河
末
後泊
とら
丹后
龍河

春雪

淡雪

枯葉の雪を吹く風は
淡雪の池を渡る水は
あはれを待つ梅の花は
阿比留の山を渡る雲は
淡雪の柳を渡る風は
淡雪の山を渡る雲は
あはれを待つ梅の花は
阿比留の山を渡る雲は

残雪

分吹
五什
湖坊
柴山
吳汗
怨卿
立成
散菴
蝶夢
健月

春廿五

雪解

松の雪を吹く風は
雪解の池を渡る水は
あはれを待つ梅の花は
阿比留の山を渡る雲は
淡雪の柳を渡る風は
淡雪の山を渡る雲は
あはれを待つ梅の花は
阿比留の山を渡る雲は

蒲尺
山石
角支
鷺石
我樂
桃里
葉亮
大薑
弥芳
涼亭

春水 霞 夕照 東朝

春水
霞
夕照
東朝

子行
香貫
柔五
沂風
疎愛
此相
山呂
長翠
五嶺

鐘聲 夕照

鐘聲
夕照

其鐘
鐘石
連雅
素鄉
葉
瓦全
芳白
籟
文後

長閑

晴日の清き空をゆく鳥の影
川に流るる水は静かに
舟に揺られながら
山に映るる雲は白く
松の影を長く
木漏れ日の中を
のんびりと歩くと
心は静かに
花の香りを
風にまかせ
春の光を
心に留めて

桂子 定行
東 林島
日向 海老
信成 化公
生保 素亨
長成 子羽
荒成 甲十
伴成 依成
小成 龍晴
見山

春廿八

麗正

春の光を
心に留めて
花の香りを
風にまかせ
山に映るる雲は白く
松の影を長く
木漏れ日の中を
のんびりと歩くと
心は静かに
川に流るる水は静かに
舟に揺られながら
晴日の清き空をゆく鳥の影

陸良 後良
安成 凡十
加成 昭河
浮成 後川
長成 瓦二
如成 芳智
知成 月守
知成 石眩
知成 菊西
素友

一海
 陸夫
 二白
 陸夫
 蝶麦
 陸夫
 杜音
 末
 等也
 友人
 東謝
 仙李
 佐保姫

二月

夫月廿九

衣蓋
 二日亥
 秋興
 初年
 二月修法

近に 琴書
 出来
 几葦
 後辰 誦著
 又他 陽山
 後辰 宗無
 陸夫 道肥
 陸夫 巴一
 後辰 巨鳥
 陸夫 仙李

下

春夜

春夜の静けさ
月影の清き光
花の香る空
鳥の啼く声
水の流る音
風の吹く姿
雲の舞う影
星の輝く夜
月の照らす道
露の降る朝

春風

春風
里塚
蘭之
正巴
毛條
枝法
駒道
吉打
雨竹

春雨

春雨の音
花の香る空
鳥の啼く声
水の流る音
風の吹く姿
雲の舞う影
星の輝く夜
月の照らす道
露の降る朝
雪の積る山

杜由
猫線
野洞
瓜房
石牙
巴陵
丈山
葉二
百枝
徐生

春三巻

陽炎

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

汗男 幹貞
陸奥 雙岳
近江 得皮
松洋 青牛
紀伊 雨流
直江 疎光
桑 塘雨
上野 本堂
武蔵 若石
伊勢 魚吹

春三四

東

水

山

川

系

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

文里
松後 雀茶
後中 路凡
武蔵 雲江
紀伊 蒲城
尾 琴之
丹后 整樹
佐馬 東鉦
是月 竹龍

防風 山葵 杉葉 土筆 狗脊

過累々つらば廣のふさふさ花の
種のみかたもあはれあつてふか
くつらば山葵のあつたつた
久るもあつたつたつたつた
廿日あつたつたつたつた
つらばあつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
つらばあつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた

下尺艾
故桂枝
存柳花
存吏部
母竹母
末六合
故李凡
故素菊
故蔞子
故守溪

春三八

獨活 慈姑 蒲公英 薊 眉作 鱉甲

あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつた

下獨笑
存茨口
存大塚
存五音令
存李郎
存簗山
存里正
存八水
存壬子
存跨山

彼岸櫻

糸櫻

連翹

椿

あけぼのさくらのはなをみれば
枝をたぐひてはなはたはな
いづれもさくらにまじりて
あけぼのさくらにまじりて
あけぼのさくらにまじりて
あけぼのさくらにまじりて
あけぼのさくらにまじりて
あけぼのさくらにまじりて

二返

之蘭

吳送

一龍

尚卿

極序

去行

子影

風雲

出極

春四三

松花

み加木

み加木

み加木

み加木

あけぼのさくらのはなをみれば
枝をたぐひてはなはたはな
いづれもさくらにまじりて
あけぼのさくらにまじりて
あけぼのさくらにまじりて
あけぼのさくらにまじりて
あけぼのさくらにまじりて
あけぼのさくらにまじりて

枝鶴

夕霞

彩我

雨石

春雪

曲川

奴次

寒口

晴雪

吾同

枸杞

接骨木花

接木

くまのせきもねの橘とあひりふ

一徹

はなもあはれもねの枝をいふ

菊

ふしやうのふしやうきよき接木を

松

つとよきまはれもねのふしやう

方壺

橘のきぬはつとよき接木を

一

接木

橘の木は梅のきぬはつとよき

香

きぬはつとよき接木を

香

雄子

きぬはつとよき接木を

香

春四ノ巻

あはれもねの橘とあひりふ

秋

あはれもねの橘とあひりふ

浪

あはれもねの橘とあひりふ

雨

あはれもねの橘とあひりふ

松

あはれもねの橘とあひりふ

松

あはれもねの橘とあひりふ

松

あはれもねの橘とあひりふ

松

あはれもねの橘とあひりふ

松

あはれもねの橘とあひりふ

松

あはれもねの橘とあひりふ

松

顔鳥 果鳥 燕

乃ら似せし夜も書く事なき
野鳥の心も人の心も
都より林の鳥の心も
先づ人の心も人の心も
人の心も人の心も
人の心も人の心も
人の心も人の心も
人の心も人の心も

市曲 不逸 古菜 翠室 采姑 九阜 何木 季遊 十書 言美

春四ノ四

帰雁

今年も六つまで
冬鳥の心も人の心も
冬鳥の心も人の心も
冬鳥の心も人の心も
冬鳥の心も人の心も
冬鳥の心も人の心も
冬鳥の心も人の心も
冬鳥の心も人の心も

文耕 子来 文耕 直意 菜二 徳聖 几董 路候 可休 五逸

行雁

秋の行雁もまた小田のや
ふらふら時を過ぎや雁の影
追ふ人をもたなほはくもや暮の雁
暮の丁もさきさきと目送るる
昔も今も遠くをさるる旅の空
ふらふら行雁も一羽や降る丁
ふらふら行雁もさきさきと目送るる
秋の行雁もまた小田のや
ふらふら時を過ぎや雁の影

秋毛 河海 梅曉 素兄 眠房 如因 吾船 湖尺 踏橋 下流 但馬

春四五

雁別

秋の行雁もまた小田のや
ふらふら時を過ぎや雁の影
追ふ人をもたなほはくもや暮の雁
暮の丁もさきさきと目送るる
昔も今も遠くをさるる旅の空
ふらふら行雁も一羽や降る丁
ふらふら行雁もさきさきと目送るる
秋の行雁もまた小田のや
ふらふら時を過ぎや雁の影

其景 之山 玉野 名及 和琴 井外 丁水 官橋 朱文 但馬

引鶴

引鴨

秋の行雁もまた小田のや
ふらふら時を過ぎや雁の影
追ふ人をもたなほはくもや暮の雁
暮の丁もさきさきと目送るる
昔も今も遠くをさるる旅の空
ふらふら行雁も一羽や降る丁
ふらふら行雁もさきさきと目送るる
秋の行雁もまた小田のや
ふらふら時を過ぎや雁の影

朱文 但馬

雲雀

中宮の侍はさくらをたのむ
さくらさくらさくらさくら
昔中宮の侍はさくらをたのむ
さくらさくらさくらさくら
園の侍はさくらをたのむ
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら

浮若 舟極
近江 舟極
紀伊 風後
他馬 懐花
越前 輪々
越前 松溪
信濃 青馬
信濃 蘭洲
安藝 雙燕
紀伊 琴上

春四六

鸞

駒鳥

招き鳥

鳥巢

啼きさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら

若手 湖極
信濃 春二
安藝 素泉
下流 徐舟
山城 踏齋
出雲 曾舟
末 徳忌
後尾 如洋
揚江 泰溪

雀巢

雀巢の鳥は巣を築く
鳥の巣は木の枝に
築く鳥の巣は木の枝に
築く鳥の巣は木の枝に
築く鳥の巣は木の枝に
築く鳥の巣は木の枝に
築く鳥の巣は木の枝に
築く鳥の巣は木の枝に
築く鳥の巣は木の枝に
築く鳥の巣は木の枝に

如風
上世
三巴
雀巢
三泉
其柙
素尋
家風
竹外
文少
凉臥

春四七

雀子

鳥喙
朝曹
継尾曹
鈴指曹
鷹化成鳩
泊山

鳥の喙は鋭く
朝曹は鳥の巣
継尾曹は鳥の巣
鈴指曹は鳥の巣
鷹化成鳩は鳥の巣
泊山は鳥の巣

蜀山
吳逸
幽管
石鼓
急陵
蘭拳
し意
冬毒
青楓
青荷

泊狩

地虫出

蛇穴出

蝶

江戸橋を渡る舟の根す那
 河うふ朝の光やせきり狩
 地虫出つて世の世をゆく
 蛇穴出つて目も眩しむ
 おそろしき心もなほあはれ
 日よけの地虫もさきしん
 聲あはれかきかき蝶はさき
 ころもさきもさきもさきも
 下もさきもさきもさきも
 蝶もさきもさきもさきも

江戸
茅白

江戸
葎道

江戸
此相

江戸
園文

江戸
里見

江戸
曾秋

江戸
林可

江戸
鳥語

江戸
雨石

江戸
杉夕

春四人

蝶もさきもさきもさきも

下もさきもさきもさきも

ころもさきもさきもさきも

聲あはれかきかき蝶はさき

日よけの地虫もさきしん

おそろしき心もなほあはれ

蛇穴出つて目も眩しむ

地虫出つて世の世をゆく

江戸橋を渡る舟の根す那

河うふ朝の光やせきり狩

江戸
桃如

江戸
我樂

江戸
如水

江戸
吳明

江戸
古寺

江戸
文里

江戸
一行

江戸
却夢

江戸
密古

江戸
谷水

腕

蜂

牛もやめぬらぬ蜂の音
草村やてふもたふれ蜂の音
道もつれもつれもつれもつれ
まもつれもつれもつれもつれ
まもつれもつれもつれもつれ
まもつれもつれもつれもつれ
まもつれもつれもつれもつれ
まもつれもつれもつれもつれ

丹波 妻守
子龍
大赤
十城
白
可曉
祥然
桂色
叢菴
下路 雨律

春四ノ九

蛙

まもつれもつれもつれもつれ
まもつれもつれもつれもつれ
まもつれもつれもつれもつれ
まもつれもつれもつれもつれ
まもつれもつれもつれもつれ
まもつれもつれもつれもつれ
まもつれもつれもつれもつれ
まもつれもつれもつれもつれ

有光
橙雨
似柳
雲帯
馬瓢
朝秋
巨舟
古築
雨老

諸子魚

飯蛸

猫妻慈

しら餅やまのふらぬり山を
砂川やまのふらぬり山を
小椋のや籠のちる里流る
飯さや改つてけり
の素魚や籠のちる里流る
味さぬらまのふらぬり山を
やまのふらぬり山を
しら餅やまのふらぬり山を
しら餅やまのふらぬり山を
しら餅やまのふらぬり山を

山に 親山
山に 文之
山に 暮雪
山に 暮水
山に 自雅
山に 春路
山に 氏古
山に 只白
山に 一峯
山に 里美

春五ノ一

しら餅やまのふらぬり山を
しら餅やまのふらぬり山を
しら餅やまのふらぬり山を
しら餅やまのふらぬり山を
しら餅やまのふらぬり山を
しら餅やまのふらぬり山を
しら餅やまのふらぬり山を
しら餅やまのふらぬり山を
しら餅やまのふらぬり山を
しら餅やまのふらぬり山を

山に 親山
山に 文之
山に 暮雪
山に 暮水
山に 自雅
山に 春路
山に 氏古
山に 只白
山に 一峯
山に 里美

乃子鹿

夜自落

十喜吟

のつ猶也 志事と歌の初め事
福の事事付事心くわむあ部
けりせと心と眼もや及り
其原 秋の心風かきく麻
為しと心と心と心と心と
あはれ心と心と心と心と
心と心と心と心と心と心と
心と心と心と心と心と心と
心と心と心と心と心と心と
心と心と心と心と心と心と

志事 茶花 花子 雲岫 馬川 杜中 此舟 志事 雲岫 示牛

春五三

紙書

野々ろや 人々の心と心と
心と心と心と心と心と心と
鳳中 心と心と心と心と心と
心と心と心と心と心と心と
心と心と心と心と心と心と
心と心と心と心と心と心と
心と心と心と心と心と心と
心と心と心と心と心と心と
心と心と心と心と心と心と

雲岫 雄杏 落紅 花子 茶花 梅江 柳雲

七中の上より...
 仲り...
 風中...
 ぬ...
 心...

信玄 信玄
信玄 二仙
信玄 支玉
信玄 南昌
信玄 荒文

三月

上巳
 弥生
 上巳

信玄 信玄
信玄 信玄
信玄 信玄
信玄 信玄
信玄 信玄
信玄 信玄
信玄 信玄
信玄 信玄
信玄 信玄
信玄 信玄

春五ノ巻

曲水
 鷓鴣
 雛茶

志...
 曲...
 鷓...
 雛...

信玄 鷓鴣
信玄 雨音
信玄 帆風
信玄 雨落
信玄 指鳩
信玄 五川
信玄 亀文

桃樹

細月とまきや雛の丈ぬあふ
似し子のまぬきりかき雛
細布に結曾のまきや
おむす方ふ形もや紙台か
はあひのや相もたれ
御り古きあふたか毛か
人地まきとく雛のふら
とまきんま同雛乃目舞ふ
高かるとまきりく雛
も柳まきとくや雛顔つる

梅珠
蘭室
金巻
洗車
塗海
雪管
風速
素心
一泉
此意

夫日五、四

桃酒

柳髪

柳太刀

草餅

菱餅

梅も半せまきや雛乃目舞
いしけのまきとくやも酒
酔意を桃のまきとく乃
肩とくくも柳のまきとく
梅のまきとく柳のまきとく
此馬柳太刀のや柳太刀
さしとくくも柳のまきとく
梅の白皮のまきとく
細るも柳のまきとく
はたもく切目もや柳太刀

文里
柳下
飄扇
富木
定雅
東胡
家凡
子堂
如洋
石州

蘭子

古きものよきもの其の好
糸の好むは蘭子の好む
ものよきものよきもの
好むものよきものよきもの
一人よきものよきものよきもの
よきものよきものよきもの
一人よきものよきものよきもの
好むものよきものよきもの
好むものよきものよきもの
好むものよきものよきもの

丁の
行人
可也
好む
五凡
素雪
香雨
杏扉
園更
梅止

香五五

安良花

すきものよきものよきもの
好むものよきものよきもの
好むものよきものよきもの
好むものよきものよきもの
好むものよきものよきもの
好むものよきものよきもの
好むものよきものよきもの
好むものよきものよきもの
好むものよきものよきもの
好むものよきものよきもの

凡
佐葉
保鶴
市厚
三蘭
雨竹
春潮
翠室
一公

十本念佛

漢藏念仏

暖温自振

結露のくさくさのくさくさのくさくさ

京

引泉

遠くくさくさのくさくさのくさくさ

道肥

結露のくさくさのくさくさのくさくさ

几董

東洋自振

結露のくさくさのくさくさのくさくさ

京

瓦全

東洋自振

結露のくさくさのくさくさのくさくさ

京

二輪

峯入

結露のくさくさのくさくさのくさくさ

京

梅全

東洋自振

結露のくさくさのくさくさのくさくさ

京

仙凡

山代

結露のくさくさのくさくさのくさくさ

京

却友

結露のくさくさのくさくさのくさくさ

京

為交

春五十六

山代

結露のくさくさのくさくさのくさくさ

京

一勢

山代

結露のくさくさのくさくさのくさくさ

京

采砂

山代

結露のくさくさのくさくさのくさくさ

京

若舟

山代

結露のくさくさのくさくさのくさくさ

京

若和

山代

結露のくさくさのくさくさのくさくさ

京

志仙

山代

結露のくさくさのくさくさのくさくさ

京

若舟

山代

結露のくさくさのくさくさのくさくさ

京

橋井

山代

結露のくさくさのくさくさのくさくさ

京

自來

櫻

はるかにさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら

伊勢 五雲
後 凉瓜
後 山家
後 郎娥
信長 雲市
聖角
周文
沂風
葛衣

春五九

山櫻

さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら

後 官氣
長 致一
美 相亨
後 桃岡
後 古桂
内 槐之
尾 杜音
素字

遅梅

落苑

そとにわたりてはるかに
木立の影をうけてはるかに
しづかにうららかに
あそびてはるかに
あそびてはるかに
あそびてはるかに
あそびてはるかに
あそびてはるかに

石段 侍交 陸奥 一舟 維駒 湖舟 牛乳 祖風 青薙 香山 若与

春六十

秋林

あそびてはるかに
あそびてはるかに
あそびてはるかに
あそびてはるかに
あそびてはるかに
あそびてはるかに
あそびてはるかに
あそびてはるかに
あそびてはるかに

木鷗 如在 梅齋 可産 山雲 佳平 牛子 折凡 不永

花寺

花寺

花見

花見の心は春の心なり
花見の心は春の心なり
花見の心は春の心なり
花見の心は春の心なり
花見の心は春の心なり
花見の心は春の心なり
花見の心は春の心なり
花見の心は春の心なり
花見の心は春の心なり
花見の心は春の心なり

鳥命

巴陵

寸傍

兼強

亀文

百尾

馬田

一以

雨流

鶏口

梅狩

梅狩の心は春の心なり
梅狩の心は春の心なり
梅狩の心は春の心なり
梅狩の心は春の心なり
梅狩の心は春の心なり
梅狩の心は春の心なり
梅狩の心は春の心なり
梅狩の心は春の心なり
梅狩の心は春の心なり
梅狩の心は春の心なり

白松

棠

李華

兼強

梅里

素兆

十善

仙風

桃

梨花

三月の春に花を咲かす
及のしらけ日和に花を
よほの仙女に花を
心ゆく女の心を花に
秋の空に花を
月乃夜に花を
折るは花を
渾たしたる花を
如きは花を
夕の光に花を

三月
再立
折風
柳南
柳人
何樂
加
紀
林
以中
對井

春六二

杏花

杏花

林檎

杏花

海棠

山吹

あけぼの
うさぎ
かた
申
ゆ
海
あ
海
あ
あ

加
呂
清
子
信
廣
東
支

藤

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a poem or prose related to the '藤' (Wisteria) section.

如女 佛仙 東取 桃牛 榎屋 鯉凡 竹燕 朝美 斗与 鳥咽 周我

春六ノ春

躑躅

Handwritten Japanese text in cursive style, likely a poem or prose related to the '躑躅' (Impatiens) section.

羽人 竹意 斗外 下谷 曾秋 素場 批也 榎屋 素丸 鳥波

楮花

五形 芽花 合法 虎杖 董 若菰 荷生初 青麦

五形 芽花 合法 虎杖 董 若菰 荷生初 青麦

條 山巴 一徹 鳩山 妹鼓 採養 巴菊 里田 砂明 約我

春六ノ五

茶葉撰 茶摘 三月菜 蕨若竹

茶葉撰 茶摘 三月菜 蕨若竹

鳥稻 蘭長 蕨哉 山生 梅若 金生 茶人 共朝

新橋

蠶

掃きまじりてはくしめをうりて
紙のむらじりてはくしめをうりて
くま掃きまじりてはくしめをうりて
糸のむらじりてはくしめをうりて
かたじけなくもはくしめをうりて
たぎりてはくしめをうりて
葉のむらじりてはくしめをうりて
細粉のむらじりてはくしめをうりて
多量のむらじりてはくしめをうりて
凡のむらじりてはくしめをうりて

寸江女

故栖

航華

集嘉

如在他

東走

陶々上

千人

江山陸

浅里

卷六六

呼子鳥

鄭景

鷹巢

麥熟

田鹿花鶴

鳥啼

雲合鳥

書の尾まじりてはくしめをうりて
かたじけなくもはくしめをうりて
たぎりてはくしめをうりて
葉のむらじりてはくしめをうりて
細粉のむらじりてはくしめをうりて
多量のむらじりてはくしめをうりて
凡のむらじりてはくしめをうりて

以琴他

栢堂上

紅血

尺荷女

三林土

杜李末

茶柳

其両陸

純市

如風

櫻鯛 生薑 金竟
 梅 和泉 山也
 櫻魚 江戸 他云
 櫻鱒 佐后 成之
 梅貝 佐美 李仙
 柳競 山 古俣
 若鮎 磯 二三
 及鮎 磯 几等

春六十七

西上藥 大和 古川
 廿近 佐美 繼家
 夏待 浪老 嘉十
 春暮 海野 白朗
春暮 秋心
春暮 長山
春暮 狂舟
春暮 友之
春暮 望云
春暮 杜由

暮春

行春

大和路の春風はさかしく
宇治の川に流るる水は
古き川に流るる水は
花の散るる春の風は
柳の芽吹く春の風は
梅の花開く春の風は
大急の春の風は
大急の春の風は

完本
影鼓
梅東
大急
大急
大急
大急

春六ノ八

惜春

三月盡

春の風はさかしく
春の風はさかしく
春の風はさかしく
春の風はさかしく
春の風はさかしく
春の風はさかしく
春の風はさかしく
春の風はさかしく
春の風はさかしく
春の風はさかしく

蘭戸
昌字
白字
暮子
喜容
春二
春鴨
曉春
巴川
洗柳

國音

行... 之... 其... 其...

馬... 彭... 蕊... 吳...

